

8・15 札幌平和祈禱集会

台湾も

あきら

諦めない！

ディヴァン・スクルマン宣教師

(台湾基督長老教会)

札幌市内の諸教会は、毎年8月15日、かつての戦争の惨禍を心に刻み、悲惨な苦しみをもたらしたわたしたちの罪を見つめ、平和を願い祈る集いを続けています。

しかし私たちの願いとはうらはらに、世界は分断を深め戦争が終わりません。さらに日本を含む東アジア地域での軍事的緊張が強調されて、沖縄で軍事基地の建設が進められ、あるいはくりかえし「Jアラート」が発動されるなど、わたしたちの生活は「戦前」の様相を深めています。

とくに、近年は中国が台湾へ侵攻するとの警戒感が強められ、それに対抗することを理由に日米の軍事同盟がいっそう強化されています。こうした情勢を、緊張のただなかにおかれている台湾の人々はどのように見ているのでしょうか。

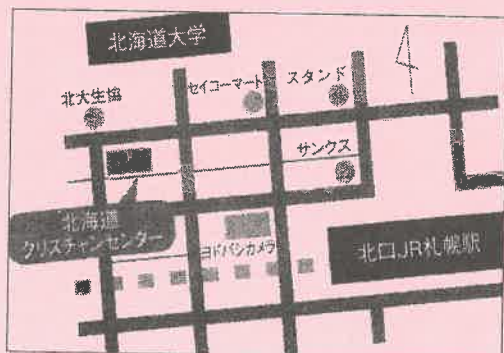
台湾は、「原住民(先住民族)」や、さまざまな時代に渡来してきた人々が複雑な社会を形成しています。かつて約半世紀にわたって日本の植民地統治下で抑圧や差別を経験し、さらに第二次大戦後は独裁政権のもとでの苦しみも味わいましたが、みずからの力で民主化をなしとげ、経済的にも大きく発展してきました。そうした歴史の中で伝道に携わってきた台湾基督長老教会は、民衆と共にある立場を明確にして信頼を集め、確かな歩みを重ねてきました。

今回、台湾基督長老教会から日本基督教団に派遣されてきている、「原住民」出身のディヴァン・スクルマン宣教師からお話を聞き、「平和」を共に考えたいと思います。ぜひどうぞご参加ください。なお、今回は久しぶりに集会後の「平和行進」も行う予定です。

とき 2023年8月15日(火) 午後6時より

ところ 北海道クリスチャンセンター (北区北7条西6丁目)

主催 札幌キリスト教連合会信教の自由を守る委員会



問合せ：久世 (札幌北部教会 771-4410)

ZOOMで参加される方は、
8月10日までに

shinkyougu@gmail.com
にお申込みください